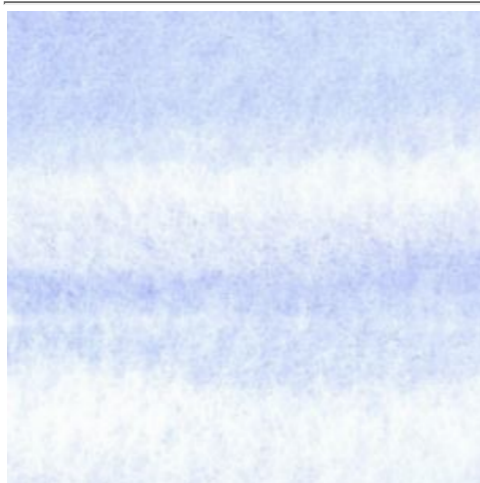


私は霧の風景が好きで、好んで描く題材の一つです。霧そのものは---つまり霧の実体は「層雲」という雲の一種で、その正体は雲粒の集合です。雨粒と比べると、直径では約100分の1、体積や重さは100万分の1しかありません。ものすごく軽いので、いつまでも空気中に浮いていられるのです。その雲粒(霧粒)の物理的な性質が、この幻想的な風景を創り出してくれます。



これが完成した絵です



1、空は真っ白でも良いのですが、薄いブルーでわずかに濃淡をつけました



2、遠くの樹木も、薄いブルーでシルエットのように描きます



3、更に遠い樹木は、もっと薄いブルーで描きます。「遠いものほど淡く」は、霧の風景では特に強調されます



4、手前の野原も、近いほど濃く、遠いほど淡く描きます



5、白い花は、パステル(白)と「修正液」で描きます



6、花の周囲をパステルで少しぼかしてみると、全体的に雰囲気が出ました